

✠009 ダビデの逃避行

<1> **ノブ**に逃れたダビデは、非常に空腹だったため、祭司を説得して聖別されたパンを貰った。

★サムエル記上 21 : 1～6

ダビデは立ち去り、ヨナタンは町に戻った。ダビデは、**ノブ**の祭司アヒメレクのところに行った。ダビデを不安げに迎えたアヒメレクは、彼に尋ねた。「なぜ、一人なのですか、供はいないのですか。」ダビデは祭司アヒメレクに言った。「王はわたしに一つの事を命じて、『お前を遣わす目的、お前に命じる事を、だれにも気づかれるな』と言われたのです。従者たちには、ある場所で落ち合うよう言いつけてあります。それよりも、何か、パン五個でも手もとにありませんか。ほかに何かあるなら、いただけますか。」祭司はダビデに答えた。「手もとに普通のパンはありません。聖別されたパンならあります。従者が女を遠ざけているなら差し上げます。」ダビデは祭司に答えて言った。「いつものことですが、わたしが出陣するときには女を遠ざけています。従者たちは身を清めています。常の遠征でもそうですから、まして今日は、身を清めています。」普通のパンがなかったので、祭司は聖別されたパンをダビデに与えた。パンを供え替える日で、焼きたてのパンに替えて主の御前から取り下げた、供えのパンしかなかった。

<2> ペリシテの領地である**ガト**に逃れたダビデは、狂気を装うことによって、自分の身を守った。

★サムエル記上 21 : 11～14

ダビデは立ってその日のうちにサウルから逃れ、**ガト**の王アキシユのもとに来た。アキシユの家臣は言った。「この男はかの地の王、ダビデではありませんか。この男についてみんなが踊りながら、『サウルは千を討ち、ダビデは万を討った』と歌ったのです。」ダビデはこの言葉が心にかかり、ガトの王アキシユを大変恐れた。そこで彼は、人々の前で変わったふるまいをした。彼らに捕らえられると、気が狂ったのだと見せかけ、ひげによだれを垂らしたり、城門の扉をかきむしったりした。

<3> **アドラム**に逃れたダビデは洞穴に隠れ住む。

★サムエル記上 22 : 1～2

ダビデはそこを出て、**アドラム**の洞窟に難を避けた。それを聞いた彼の兄弟や父の家の者は皆、彼のもとに下って来た。また、困窮している者、負債のある者、不満を持つ者も皆彼のもとに集まり、ダビデは彼らの頭領になった。四百人ほどの者が彼の周りにいた。

<4> ダビデは父母を**モアブ**に逃れさせた。

★サムエル記上 22 : 3～4

ダビデはモアブのミツパに行き、**モアブ**の王に頼んだ。「神がわたしをどのようになさるか分かるまで、わたしの父母をあなたたちのもとに行かせてください。」モアブ王に託されたダビデの両親は、ダビデが要害に立てこもっている間、モアブ王のもとにとどまった。

<5> **ハレト**の森に隠れる。

★サムエル記上 22 : 5

預言者ガドが、「要害にとどまらず、ユダの地に出て行きなさい」と言ったので、ダビデは**ハレト**の森に移って行った。

<6> ペリシテ人の手からケイラを救うが、サウルが追跡してきたので、**ジフ**の荒野に逃げた。

★サムエル記上 23 : 1～14

ペリシテ人がケイラを襲い、麦打ち場を略奪している、という知らせがあったので、ダビデは主に託宣を求めた。「行って、このペリシテ人を討つべきでしょうか。」主はダビデに言われた。「行け、ペリシテ人を討って、ケイラを救え。」だが、ダビデの兵は言った。「我々はここユダにいてさえ恐れているのに、ケイラまで行ってペリシテ人の戦列と相対したらどうなるのでしょうか。」ダビデは再び主に託宣を求めた。主は答えられた。「立て、ケイラに下って行け。ペリシテ人をあなたの手に渡す。」ダビデとその兵はケイラに行き、ペリシテ軍と戦い、その家畜を奪い、彼らに大打撃を与え、ケイラの住民を救った。アヒメレクの子アビアタルが、ケイラのダビデのもとに逃げて来たとき、彼はエフォドを携えていた。ダビデがケイラに来たと知らされたサウルは、「神がダビデをわたしの手に渡されたのだ。彼は、扉とかんぬきのある町に入って、自分を閉じ込めてしまったのだ」と言った。彼は兵士全員を戦いに向けて召集し、ケイラに下ってダビデとその兵を包囲しようとした。ダビデはサウルが自分に危害を加えようと計画しているのを知って、祭司アビアタルに、エフォドを持って来るように頼んだ。ダビデは主に尋ねた。「イスラエルの神、主よ、サウルがケイラに進んで来て、わたしゆえにこの町を滅ぼそうとしていることを僕は確かに知りました。ケイラの有力者らは、サウルの手わたしを引き渡すでしょうか。僕が聞いているように、サウルはケイラに下って来るでしょうか。イスラエルの神、主よ、どうか僕にお示してください。」主は「彼は下って来る」と言われた。ダビデが、「ケイラの有力者らは、わたしと兵をサウルの手引き渡すでしょうか」と尋ねると、主は「引き渡す」と言われた。ダビデとその兵およそ六百人は立ち上がり、ケイラを去り、あちこちをさまよった。サウルはダビデがケイラから避難したと知らされて、出陣するのをやめた。ダビデは荒れ野のあちこちの要害にとどまり、また**ジフ**の荒れ野の山地にとどまった。サウルは絶え間なくダビデをねらったが、神は彼をサウルの手引き渡されなかった。

<7> ダビデを励ましに来た**ヨナタン**と密かにあった。

★サムエル記上 23 : 15～18

ジフの荒れ野のホレシャにとどまっていたダビデは、サウルが自分の命をねらって出陣したことを知った。そのとき、サウルの子**ヨナタン**がホレシャにいるダビデのもとに来て、神に頼むようにとダビデを励まして、言った。「恐れることはない。父サウルの手があなたに及ぶことはない。イスラエルの王となるのはあなただ。わたしはあなたの次に立つ者となるだろう。父サウルも、そうなることを知っている。」二人は主の御前で契約を結んだ。ダビデはホレシャに残り、ヨナタンは自分の館に帰って行った。

<8> **エン・ゲディ**の洞穴に隠れた。

★サムエル記上 24 : 1

ダビデはそこから上って行って、**エン・ゲディ**の要害にとどまった。

<9> サウルを殺す絶好の機会を得るが、免除した。

サムエル記上 24 : 2～8

ペリシテ人を追い払って帰還したサウルに、「ダビデはエン・ゲディの荒れ野にいる」と伝える者があった。サウルはイスラエルの全軍からえりすぐった三千の兵を率い、ダビデとその兵を追って「山羊の岩」の付近に向かった。途中、羊の囲い場の辺りにさしかかると、そこに洞窟があったので、サウルは用を足すために入ったが、その奥にはダビデとその兵たちが座っていた。ダビデの兵は言った。「主があなたに、『わたしはあなたの敵をあなたの手に渡す。思いどおりにするがよい』と約束されたのは、この時のことです。」ダビデは立って行き、サウルの上着の端をひそかに切り取った。しかしダビデは、サウルの上着の端を切ったことを後悔し、兵に言った。「わたしの主君であり、主が油を注がれた方に、わたしが手をかけ、このようなことをするのを、主は決して許されない。彼は主が油を注がれた方なのだ。」ダビデはこう言って兵を説得し、サウルを襲うことを許さなかった。サウルは洞窟を出て先に進んだ。

<10> **パラン**（マオン）の荒野に身を隠す。

★サムエル記上 25 : 1

サムエルが死んだので、全イスラエルは集まり、彼を悼み、ラマにある彼の家に葬った。ダビデは立って**パラン**の荒れ野に下った。

<11> **ジフ**の荒野に移動し、そこでもまたサウルを殺す機会を免除した。

★サムエル記上 26 : 1～4

ジフ人がギブアに来てサウルに、「砂漠の手前、ハキラの丘にダビデが隠れている」と告げた。サウルは立ってイスラエルの精鋭三千を率い、**ジフ**の荒れ野に下って行き、ダビデをジフの荒れ野で捜した。サウルは、砂漠の手前、道に沿ったハキラの丘に陣を敷いた。ダビデは荒れ野にとどまっていたが、サウルが彼を追って荒れ野に来たことを知り、斥候を出して、サウルが来たことを確認した。

★サムエル記上 26 : 7～11

ダビデとアビシャイは夜になって兵士に近寄った。サウルは幕営の中に横になって眠り込んでおり、彼の槍はその枕もとの地面に突き刺してあった。アブネルも兵士もその周りで眠っていた。アビシャイはダビデに言った。「神は、今日、敵をあなたの手に渡されました。さあ、わたしに槍の一突きで彼を刺し殺させてください。一度でしとめます。」ダビデはアビシャイに言った。「殺してはならない。主が油を注がれた方に手をかければ、罰を受けずには済まない。」更に言った。「主は生きておられる。主がサウルを打たれるだろう。時が来て死ぬか、戦に出て殺されるかだ。主が油を注がれた方に、わたしが手をかけることを主は決してお許しにならない。今は、枕もとの槍と水差しを取って立ち去ろう。」

<12> ペリシテの地に逃れる。

★サムエル記上 27：1～7

ダビデは心に思った。「このままではいつかサウルの手にかかるにちがいない。ペリシテの地に逃れるほかはない。そうすればサウルは、イスラエル全域でわたしを捜すことを断念するだろう。こうしてわたしは彼の手から逃れることができる。」ダビデは立って、彼に従う兵六百人と共に、ガトの王、マオクの子アキシユのもとに移って行った。ダビデとその兵はおのおのの家族と共にガトのアキシユのもとに身を寄せた。ダビデは二人の妻、イズレエルのアヒノアムとカルメルのナバルの妻であったアビガイルを連れていた。ダビデがガトに逃げたと聞いたサウルは、二度とダビデを追跡しなかった。

※ペリシテはイスラエルの旧来の敵。ダビデを追ってペリシテに行くだけの軍事力がサウルになかったのであろう。将来、イスラエルで偉大な王となるダビデがペリシテに保護を求めたことは皮肉な話である。